

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度相模原市子ども・子育て会議 第4回子ども・子育て支援事業計画策定部会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)		
開催日時		平成30年12月4日(火) 午後6時から7時15分		
開催場所		けやき会館 職員研修所大研修室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10名)		
公開の可否		可	不可	一部不可
傍聴者数		0人		
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について ・ヒアリング調査について (2) その他 ・アンケート調査について(報告) 3 閉 会		

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について

・ ヒアリング調査について

今回のヒアリング調査では、調査員の負担を軽減するために、予め回答欄に想定される回答の選択肢を記載しておき、該当する回答があれば、その選択肢に丸をつけることとしている。そのため調査員は、施設の性質や、質問の趣旨等を事前に理解している必要があると思う。例えば、こどもセンターの利用者を対象とした調査票にある「スタッフに必要なスキルはどのようなものか」を問う質問に対し、「教育のポリシーが明快かつ理解できること」という選択肢を記載しているが、調査員は、こどもセンターの役割を理解した上で、どのような回答があればこの選択肢を選ぶかという想定をしておく必要がある。

調査員として協力してもらう大学生は、調査の趣旨等を事前に理解しておく必要があるため、丁寧にオリエンテーション等を実施してほしい。また、それに関連し、選択肢については大学生でも選択しやすいような表現の方が好ましい。

- 大学生には事前にオリエンテーションを実施し、各質問の趣旨や聞き取りたい内容などを理解してもらうようにしたい。また、選択肢については分かりにくい表現もあるため、調査員が困惑しないようオリエンテーション等を踏まえ適宜改善したい。

こどもセンターは、時間帯によって利用者の傾向が異なる。午前は主に乳幼児とその保護者が利用しており、午後は主に小学生が利用している。また、その小学生の中には児童クラブを利用している子どもも含まれている。例えば、午前だけ調査を実施すれば、調査対象となる利用者は乳幼児の保護者に偏ってしまうこととなり、夕方小学生を迎えに来る親などは含まれなくなる。

時間帯ごとに調査を実施すれば、より精度の高い調査になると思うが、今回の調査では、そこまでの精度は求めないものと理解している。

- ヒアリング調査は、対象となる施設や調査員の都合も考慮して日程を決めた上で実施しなければならないので、必ずしも特定の利用者に限定して回答してもらうことは難しいが、こどもセンターについては各区1か所調査する予定なので、区ごとに時間帯を変えるなど工夫をしたい。また、調査票には実施した時間を記入する欄を追加したい。

児童クラブ等を利用している子どもを対象とした調査票に、先生の好きなとこ

るを質問する項目があるが、前回会議でも意見があったように、好きなところがなくとも答えるよう誘導してしまう可能性がある。子どものニーズを把握することが目的なのであれば、「先生にしてほしいこと」という聞き方が好ましいと思う。

他の質問項目で「やりたいこと」を聞いているが、それは施設でやりたいことを把握するための質問項目で、「先生にしてほしいこと」とは違うので、区別されていて良いと思う。

ご意見のとおり修正する。

利用者支援事業を対象としたヒアリング調査において、すすすく保育アテンダントに対し、「利用者から、保育に直接関係のない相談があるか」を聞く質問項目があるが、すすすく保育アテンダントは保育の利用調整に関する業務のみを担っているため、保育に直接関係のない相談はないのではないかと。

市としては、すすすく保育アテンダントは保育の利用調整に関する業務を担うものとしているが、窓口に来る利用者はそれ以外にも市に相談したいことがあり、それをすすすく保育アテンダントに相談する可能性もあると考えられる。この調査では、そういった保育以外の相談があるか、それはどのような内容か、それに対しどう対応しているかを検証できればよいと思う。

ヒアリング調査全体を通しての意見だが、障害児やその親も調査対象に含め、ニーズ等を把握する必要があると思う。今では障害サービスが以前より充実してきており、良い傾向である一方で、親はサービスに頼り過ぎて子育ての意識が薄れてきていると感じており、そこに課題があると思う。

あえて障害児やその親を選んで調査をするということは考えていないが、保育所等には障害児も通っているので、障害の有無を区別せず調査を実施し、障害児やその保護者からの意見も聞くことができることを期待したい。

- 本日の議論を踏まえヒアリング調査票を修正し、順次調査を実施する。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出欠
1	荒井 美由紀	相模原市立小中学校長会	出席
2	遠藤 靖明	公募市民	出席
3	片山 知子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
4	西谷 八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
5	藤井 春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
6	松原 充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
7	村瀬 麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
8	山崎 和正	相模原商工会議所	出席

部会長